

様式第3号

議 事 録

会議名		令和4年度川西市総合教育会議(第2回)		
事務局(担当課)		政策創造課		
開催日時		令和4年12月27日(火) 15時00分から16時00分		
開催場所		川西市役所 7階 大会議室		
出席者	委員	川西市 越田市長  川西市教育委員会 石田教育長、坂本委員、治部委員、佐々木委員		
	関係職員	石田総合政策部長、中西教育推進部長、山元こども未来部長、飯田総合政策部副部長、岩脇教育推進部副部長、山戸教育推進部副部長(教育保育担当)、釜本こども未来部副部長、井上こども未来部副部長(こども支援担当)		
	事務局	総合政策部政策創造課 野田課長、西寄主任、渡邊主事		
傍聴の可否		可	傍聴者数	3人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 事 (1) 今後の教育行政のあり方について (2) 前回総合教育会議協議事項のその後の展開について ① 就学前教育保育について ② 特別支援教育保育と障がい児福祉について ③ 不登校施策について ④ 校区に関する課題について ⑤ 卒業式のあり方について (3) 報告事項について ① 教育大綱の策定について ② 総合教育会議の地域開催について (4) その他		
会議結果				

## 会議経過

発言者	発言内容等
市長	<p>皆さんお疲れ様です。</p> <p>ただいまより、令和4年度の第2回川西市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>今回は、坂本委員と佐々木委員はオンラインによりご参加をいただいております。</p> <p>私も、10月28日から市長任期2期目となりました。この会議についてメンバーは変わりませんが、新たな気持ちで、これからどういふことをやっていくべきなのかということ、我々市長部局と教育委員の皆さんとしっかりと共有をしていきたいと思っています。</p> <p>それでは、議事に入りたいと思います。</p> <p>まず「(1) 今後の教育行政のあり方について」という点についてです。冒頭少し私のから考えをお話させていただいて、あと、事務局から補足等がありましたら、補足をいただきたいと思っています。</p> <p>まず、今日、共有をさせていただきたいことが、大きく2点ございます。</p> <p>一つ目は教育大綱の策定ということです。これまでは教育大綱をつくらぬという形でスタートをしてきました。そういった形で4年間市政運営をしてきたのですが、やはりその場その場で色々な判断を求められる、また、中長期的に取り組まなければいけない課題があるという状況の中で、やはり原点に立ち戻って、しっかりと教育大綱を策定していくことはマニフェストにも掲げさせていただきました。</p> <p>法律上は地方公共団体の長が、教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱をつくり、それについて総合教育会議において協議をするということになっておりますので、当然市長部局だけでつくるものということではなく、教育委員の皆さんとしっかりと協議しながら、つくっていききたいというふうに思っています。</p> <p>ただ、つくるという点において、これは私のスタイルでもありますが、やはり当事者の皆さん、保護者の皆さん、現場の皆さん、そして専門的な知見をお持ちの皆さん、様々な視点でご協議いただきたい、アドバイスをいただきたいということを思っておりますので、来年度、中学校区を中心として総合教育会議を地域開催をしていくということもあわせて、この策定プロセスの中に盛り込んでいきたいなと思っております。</p> <p>これが1点目教育大綱の策定ということです。</p> <p>例えば今で言いますと、不登校の問題をどうしていくのかとか、インクルーシブ教育をどうしていくのかとか、学力の問題をどうしていくのかとか、色々な課題がありますし、クラブ活動の問題も、一つ大きなテーマになってくるかもしれません。</p> <p>ここで一つ一つ議論をしていると、それだけで1時間、2時間がすぐ経ってしまいますので、今日は大枠として、こういった方向で教育大綱をつくっていくということ、ここにいらっしゃる皆さんと共有をしていきたいというふうに思っています。</p> <p>2つ目の点です。これも私自身マニフェストで掲げさせていただきましたが総合教育会議を地域で開催していきたいということです。</p> <p>来年度の5月から7月にスタートする総合教育会議の地域開催については当然、これらに関する予算等の協議というのが、今後、市議会に提案をしてということになりますので、現時点で我々の予定ということで、お聞きをいただけたらと思っています。</p> <p>私としては、教育行政の細かい部分というのは基本的には教育委員さんや、教育委員会事務局または学校現場で判断をするべきところが多いと思っています。ただ、どうしても何かうまくいかなかった場合に、市民からダイレクトメール等で、市長これ何とかしてほ</p>

発言者	発言内容等
	<p>しいと。例えば、Tシャツのワンポイントを何とかして欲しいとか、プールのラッシュガードを認めてくれないんだけどとか。正直、私自身に個別事項にこだわりがあるわけではありませんので、学校現場で話し合っていて、決めていただければということなんです。なかなか保護者の方にとっては、教育行政に物を申すということが少しやりにくいという状況がございます。</p> <p>ですから、この総合教育会議、教育委員の皆さんと一緒に、地域のほうに入って行って、地域の皆さんから、しっかりとご意見を、我々教育行政としても受けていくと。こういった動きをすることによって、学校現場においても、学校では運営協議会が基本的にあります。そういったところで、学校の運営というものを、保護者の皆さんや地域の皆さんのお力をお借りしながら、しっかりと学校現場で決定をしていく、そのプロセスを大きくつくっていく必要があるのかなということで、地域開催がキックオフになるのではないかなと思っています。</p> <p>ただ、いきなり総合教育会議に来て、発言をしてくださいというわけにはいきませんので、例えば第一部・第二部という形で、まずタウンミーティングで私が保護者の方や子どもさんといろいろお話をさせていただいて、できればそこで総合教育会議の教育委員、先生の皆さんにも、お聞きいただいて、そういったものを一つの大きな材料にしながら、第二部の総合教育会議でお話を、拾った課題でいろいろ意見交換をしていく。こんなプロセスが出来ないかなと思っています。</p> <p>現時点で大きくマニフェストで掲げた点について、特に皆さん方と関わることで来年度一緒にお力をお貸しいただかなければいけない点について、冒頭でご説明をさせていただきました。</p> <p>また、そのほか今回のマニフェストでは、「政策は子ども・教育から始める」ということを明確に打ち出しました。</p> <p>教育の点でいいますと、中学校における少人数の授業を増やしていく。なかなか先生の数を一気に増やすことが出来ませんので、少なくとも英語、数学といった積み上げが必要な教科については、できるだけ少人数で授業が受けられる体制をつくっていくということ。もう一つは校内フリースクール、これも後ほどご報告があるとお聞きしておりますが、校内フリースクールについては、現在中学校でやっているのを、できるだけ早い段階で、小学校まで拡大をしていく。こういったことも一つ具体的に教育委員会のほうで動いていただいておりますので、教育委員の皆さんにおきましては、その点の、ぜひサポート、お力添えをいただきたいというふうに思っております。</p> <p>現時点で私の思い、(1)の今後の教育行政のあり方についてと私から問題提起をさせていただきました。</p> <p>事務局から補足があればお願いします。</p> <p style="text-align: center;">(補足事項なし。)</p>
事務局	
市長	<p>なしということですので、以上で私からの報告を終わらせていただきまして、この点について、皆様からご意見やご質問いただければありがたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>私がしゃべって私が司会をするというのは、非常に難しいのですが、まずこういうところはオンラインで参加していただいている皆さんが最初に発言をしないとなかなか会議が進みませんので、坂本委員から、よろしく願いいたします。</p>

発言者	発言内容等
坂本委員	<p>今2つのトピックをお話をさせていただきましたので、その点についてご感想などでも結構です。</p> <p>総合教育会議の地域開催っていうのを私も同じことをしたいなと思っているんです。先日、兵庫県の教育委員会の移動教育委員会に出席させていただいたんですが、私も現場になかなか行けてなくて。</p> <p>現場に近づいていって生の声っていう、今生きている空気感っていうのを感じながら考えていかないといけないなと思っていたので、市長のご提案はすごく嬉しく思っています</p>
市長	<p>では、佐々木委員からもご意見やご感想をいただければと思います。</p>
佐々木委員	<p>教育委員の佐々木です。</p> <p>先ほど市長のほうからお話がありました、具体的に、総合教育会議を外に出て行って開催するという話を大変興味深く聞いておりました。</p> <p>なんといいですか、実際の教育現場、保護者、生徒さんと、私たちが市役所でお話していることっていうのは、本当は同じ方向を向いて、お互いをつくっていかないといけないところを、どうしても物理的に分離してしまっていて、そういったアンテナを張っている方たちだけが、どこかしら、こういう総合教育会議の資料もお読みになってらっしゃるんだろうと思うんですけれども、そうでない方が大多数だと私は考えておりますので、こうやって地域開催をしていくというのは非常にいいことだと思っております。</p> <p>具体的な方法も今聞かせていただきましたけども、タウンミーティングっていうのは、ほぐすというか、いろんな意見が出てきた中で、そのあと総合教育会議に導くというような形で、非常に市民も参加しやすい方法なんじゃないかと思えます。聞いていて、よくわかりました。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>全部の資料をパソコン1台で見ながらやっているものですから、私、先ほど議事の(1)と(3)が一部混ざった説明をしてしまいました。総合教育会議の地域開催については議事の(3)に入っていきます。また詳細は事務局からご説明いたします。</p> <p>では、治部委員、いかがでしょうか。</p>
治部委員	<p>子どもを主体においた意見は非常にうれしく思いますし、大賛成です。</p> <p>その上で自分自身をここにいる意味みたいな考えを、やっぱり福祉的な視点を教育の皆さんと一緒に考えていくっていうのが、自分の中では組立てがあったかなって思っています。主には自然とか発達とか人格とかっていうありのままの自分で成長していく。教育というコマンドの中でどうやってこう自我と一緒に育っていくんだみたいな、その視点は、一緒に考えていけたらいいなと思えます。</p> <p>そんな中で、今回、先ほどお話にあった校内フリースクールは、大きく期待したいと思えます。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>石田教育長いかがでしょうか。</p>

発言者	発言内容等
石田 教育 長	<p>市長とは常日頃から教育や行政について意見をお聞きしたりお話したりしている仲間なんですけども、私自身は、教育大綱を作る意味というのは大きく二つあると思っています。</p> <p>一つはやっぱり教育が教育だけに特化したものではなくて、福祉とか、健康とか、もうちょっと踏み込みますと地方自治にまで、やっぱり学びというものは広く行き渡っていくものです。その連携を考えたときに、やはり教育委員会だけ、市長部局だけでは到底なしえないことだというふうに思っていますので、教育大綱という一つの大きな柱を立てていくことは、大事なことなんじゃないかなというふうに思っています。</p> <p>もう一つはこの後の議題にもありますけども、就学前教育、保育、それから学校教育、社会教育の大きな転換期に今来ているような気がしています。</p> <p>出生する子どもの数が非常に減っている。地方も高齢化する中で、どうやって自治を進めていくのかという問題もあります。そういう大きな転換期の中で、やはり先ほど言った大きな柱というのは大事になってくるかと思っています。</p> <p>それと総合教育会議については、実は教育委員会の中でも少し論議があったところなんです。やっぱりこれもコロナ禍の中で私も一番反省したのは、非常にスピード感を持って決断しなければならぬ場面が多かったのも、やむを得ないという部分もあったのは承知していますが、やはり、当該子どもの意見であるとか保護者の意見を十分吸い上げることが難しく出来なかった。今年度はやはりできるだけ、コロナ禍での声とか、保護者の声とか、直接聞く機会をもちたいなあというふうに教育委員会の中でも話していたときに、市長から総合教育会議に提案をいただきました。非常にいいかなと思っています。</p> <p>また、子どもも1人1台タブレットについて保護者や子どもの意見を直接的に聞いて集約することも非常に重要になっておりますこういったものを利用して、できるだけそういう全体のニーズみたいなものを把握する、そういう機会の一つとして総合教育会議が位置づけられるっていうのは非常にいいことかなというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>多くは私の思いと進め方というところですので、一つ一つの大きな具体的な議論というのは、来年度1年間かけてここにいらっしゃる皆さんと、一つ一つ本当に議論をして、良い方向性を示していければと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>(1)についてはこの辺で終了させていただきます。</p> <p>次に2点目(2)として、前回の総合教育会議でいくつかご議論いただいたり、問題提起をさせていただいたものがあります。その後の検討状況や展開について、総合教育会議というところが共有する場所ですので、ここで共有をし、市長部局と教育委員会で一緒に進めていく。そういったことも共有していきたいと思っておりますので、一括して教育長から、ご説明、順次補足も入れながらよろしく願いいたします。</p>
石田 教育 長	<p>それでは私から概要をお話させていただきます。前回の総合教育会議でいただいた、お題が5つあったかなと思います。</p> <p>1つが就学前教育保育について。</p> <p>2つ目が、特別支援教育保育と、障害福祉について。</p> <p>3つ目は、不登校施策について。</p> <p>4つ目は、校区に関する協議について。</p>

発言者	発言内容等
	<p>5つ目は、卒業式。特に中学校の卒業式の日程について。</p> <p>この5つの課題をいただいていたかなと思いますので、私のほうから報告させていただきます。</p> <p>まず1つ目、就学前教育保育についてですが、(仮称)川西市子ども・若者未来計画を今策定しております。令和5年1月10日から2月13日まで、計画案に関するパブリックコメントを実施する予定としております。</p> <p>この計画案の第7章に市立就学前教育保育施設のあり方という章を設け、令和4年4月に策定いたしました、市立就学前教育保育施設のあり方について、提案の内容等を反映させていくこととしております。</p> <p>市立幼稚園に関する事業計画の概要は以下のとおりです。</p> <p>久代幼稚園は、川西南保育所と一体化し、幼保連携型認定こども園としますとし、また、多田幼稚園は多田保育所と一体化し、幼保連携型認定こども園としますとしております。両園とも園児募集において、4歳児クラスの児童数が5人未満になった場合は、休園等を検討することとしております。</p> <p>次に清和台幼稚園につきましては、先だつての議員協議会でご説明させていただきましたが、今年度末の閉園に向けて取組を進めてきたところです。閉園に関する条例改正案を市議会に提案いたしましたが、継続審査となり、その後廃案となっております。これを受けまして、清和台幼稚園に関する今後の事業計画を本計画に計上しております。その内容といたしましては、閉園の時期を令和5年度末をもってとするとともに、令和5年度は、在園児が1名となる見込みであることから、教育委員会が指定する園で、合同による教育保育を提供することとしております。</p> <p>また、令和5年度の園児募集につきましては行わないこととしております。</p> <p>次に東谷幼稚園につきましては、4歳児クラスの児童数が5人以上になった場合は、園の運営を存続しますが、5人未満となった場合は、閉園を検討し、その際在園児の転園先に関するあっせん調整等の支援を実施するものを記載しております。</p> <p>2点目、特別支援教育保育と、障害福祉についてであります。私立幼稚園等における支援が必要な子どもに対する加配職員配置に対し、補助を行う制度を今年度から実施しています。</p> <p>令和4年度の私立幼稚園の加配教員について、4幼稚園で加配が必要な園児16人、加配職員9人を決定しました。</p> <p>各園で加配教員職員を確保するとともに、市教委では当該幼稚園を対象に巡回指導などの研修を本年度行う予定としております。令和5年度の加配職員については、年明けに決定する予定です。</p> <p>3つ目の不登校施策についてでございます。</p> <p>前回の総合教育会議でご説明させていただいた通り、総合的な不登校施策について、引き続き検討を進めています。</p> <p>今、ご報告できる段階となりましたら改めてご報告させていただくと考えておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>また、前回協議の際に、不登校特例校について話題となっておりますが、その後、報道もされています通り、国は不登校特例校の設置を推進しています。不登校特例校について将来の場を見据えつつ、分教室として設置する取組みを、東京都が実施しています。</p> <p>また、実際に設置されている学校を視察する予定としております。このような取組みなどを踏まえて検討を進めていきたいと考えております。</p>

発言者	発言内容等
	<p>また、今年度から実施しています中学校における校内フリースクールについてはこの後、当該中学校からの報告をまとめてありますので、プレゼンさせていただきたいと思っています。</p> <p>4つ目、校区に関する協議でございます。</p> <p>校区により、自宅から距離の一番近い学校に行けていない子があったということは、市長から課題をいただいているところです。</p> <p>この度、対応策として、区域外就学制度、令和5年度の新小学1年生から6年生、つまり現1年生から5年生を対象として、区域外就学制度の条件を拡充し、近距離の学校への就学変更を認めることとしました。</p> <p>新たな認定条件として、隣接校のほうが、通常の経路より通学距離が短縮され、通学の安全が確保される場合、隣接校への就学校変更を認めるということにいたしました。校区自体の変更には様々なハードルがあり、容易に実現出来ない部分もありますが、やはり子どもを第1に見ていくという視点に立って、その利益を優先した対処を目指しました。他市の制度にいたしましても、近距離校への就学校変更を認めている事例が多いということでもあります。</p> <p>今年度開催した校区審議会においては、指定校以外の就学により地域活動への参加が消極的になるというご意見もありましたが、一方で、地域に住んでいる校区外の学校に通学している子どもたちも地域でバックアップして、地域の行事に参加させたいという意見もいただきました。</p> <p>制度の申請書には、地域での活動を制限するものではなく、就学校に関わらず、地域活動はこれまで通り住宅地が基本となるという旨の記載を明記しておるところでございます。</p> <p>5つ目、中学校の卒業式の日程についてです。</p> <p>現在、公立入学試験の前日という日程になっており、保護者から様々なご意見をいただいておりますし、教育委員からもご意見をいただいているところです。</p> <p>ただ、年度途中での変更というのは、阪神間の中学校校長会で日程を統一して、決めてきたという経緯がありますので、そのまま手続きを急に変更するってのはなかなか難しいということで、日程変更は行わないことを原則としております。</p> <p>ただし、卒業式の日程等につきましては、基本的には教育課程編成上のことですので、中学校長が中心となって、子どもや保護者の意見を聞いていただいて、その上で学校運営上の視点から決定すると考えています。</p> <p>また、必要に応じて市教委としては、その日程について、指導助言を行っていきたいと思っています。令和5年度卒業式については、現在全ての中学校で生徒や保護者の在校生の意向を確認して、その上で一旦中学校長会として協議するという手順で進めていきたいと考えております。</p> <p>ここで、校内フリースクールの取組について説明をさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p>
市長	<p>お願いします。</p>
中西教育推進部長	<p>それでは私から説明させていただきます。</p> <p>中学校の校内フリースクールについて一部の中学校での先行実施を踏まえまして、今年度より市内7中学校で運営を開始しております。</p>

発言者	発言内容等
	<p>2学期開始時点の利用者数につきましては、7中学校で67名。学校によりまして開始時間ですとか、活動内容が異なっておりますが、今回、多田中学校のほうで資料をお借りしましたので、多田中学校での事業を中心にご紹介をさせていただきます。</p> <p>多田中学校は中規模の学校として、生徒数が、557人、18学級の学校です。12月7日現在で、30日以上欠席となっている生徒が41名。校内フリースクールの利用者が11名でございます。学年別でみますと、いずれも2年生が少し多い結果となっております。</p> <p>多田中学校につきましては、「ほっとルーム」という名称になっておりまして、温かいか気持ちほっとするっていう思いが名称に表わされています。コンセプトとしましては、誰もが安心していつでも登校できる居場所ということでございます。</p> <p>校内フリースクールにつきましては、不登校担当教員を中心に全教員で話し合いをされて、目的、方針等が決定されています。</p> <p>目的につきましては、教室以外の居場所、自信の回復であったり、エネルギーを充填できる空間となっております。方針につきましては、生徒の多様性に配慮して、生徒のペースを大切にして、教室復帰を目指すのではないという方針でございます。</p> <p>身につけさせたい力としましては、人との関わりであったり、肯定的な自己理解、希望や目標をもつことというところを目指しています。</p> <p>開室する時間につきましては、時間割でいいますと、4時間目・5時間目・6時間目で、11時30分から15時30分という4時間に設定されています。始まりのほうがゆっくりとなっておりますが、この通常の登校の時間帯につきましては、体調が優れない生徒であったり、起立性調節障害の生徒等がいることで、余裕をもって登校できる環境としております。家庭で昼食をとってから登校してくる生徒もいますが、2学期から中学校給食が始まっていますので、少し前にきて、給食を食べて、それから学びの時間となる生徒もいます。</p> <p>これはホットルームの様子になります。コンセプトは、学校らしさということで、できるだけ教室の雰囲気はなくしている。教室というプレッシャーを感じにくい空間にするということで、学校と家庭の間ぐらいの雰囲気を目指しています。そのために、少し見えてくるんですけど、机の形です。直線を使った柔らかい机ですとか、机が二つ三つ四つという、組み合わせも自由にできるということで、その時々の子どもの状況をもって配置を変えています。個室のブースのような間仕切りもありまして、ここでは、一人一人が集中して学びを進めるということで、落ち着いて自分の課題に取り組んだり、ブースからタブレットパソコンを使って授業に参加したりしています。</p> <p>一方で、ソファも置いてありまして、子どもたちの状況、その時々状況に応じた対応ができるような、空間としております。左側の写真が教室後方ですが、ここでは外国語、数学、国語、習熟度に合わせた課題というのが置いてあります。またこの書籍が並んでいるんですけど、進路指導であったり、キャリア教育であったり、自己啓発の書籍。そのほかに、例えば卒業後の自立に向けて、考えるきっかけにということで、一人暮らしをするための部屋選びの雑誌なんかも置かれています。右の方は写真でいいますと、パズル、ゲーム、こういったところで、気持ちをリセットする場面もみられます。また子どもたちが作った作品を展示したり、黒板に絵を描いたりということで、居心地がよくなるような雰囲気作りにつとめています。</p> <p>こちらが、生徒がフリースクールに来ますと、担任教員がそこにきて生徒と話す機会がありますが、担任以外の関係職員が情報を共有するために、その日の記録、活動日誌を生徒自身がしっかりとまとめています。この記録につきましては、今後の方向支援計画を立</p>

発言者	発言内容等
市長	<p>てる上での参考にもしております。ほっとルームの日記です。これは、ホットルームに常駐する支援員のほうが1人1人の様子を記録して、それぞれの生徒の状態、活動内容、そういったところを担当と共有できるように日記をつけております。ホットルームを利用した生徒や保護者の声をまとめたものとなっております。</p> <p>生徒からは、勉強に集中できる、先生としやすい、他の生徒と関わることなく過ごせる、などの声が寄せられています。保護者からは、居場所ができた、居心地良く自分を出せているのではないかという声をいただいております。実際、多くの生徒も登校の日数が増えたという状況ではありますが、学校としては登校日数を増やすことを目指している、それも大切なんです、それ以上にそれぞれの子どもたちが来ることができる時、来れるタイミング、来れるペース、登校できたときに、しっかりと受け入れられる環境、体制を整えていくことを大切にしています。</p> <p>今後に向けての課題として運営体制などがあります。支援員は配置にはなっておりますが、担当教職員をどう配置体制していくのかということセオリア、関係機関との連携、教職員の共通理解、生徒の実態把握をどうしていくかというところ、さらにはほっとルームという存在を全校的にどう知らせるのかということがあります。</p> <p>現在、7中学校の中で全校周知をしていますのは1校、先行実施の1校となっております。他の学校につきましては、教室以外の居場所ということで、デリケートな部分ですが様々な生徒がたくさん一斉に来ないかという懸念もありまして、現時点では、個別で案内している状況ではありますが、居場所として周知をしていきたいと思っております。</p> <p>また、利用者が増えているという傾向の中で、本来フリースクールの中で、生徒同士が関係を深める場面があります。</p> <p>その一方で、フリースクールの中で人間関係の関わりに不安をもっている生徒もいますので、そういった様々な子どもがいる中で、そういったかたちで、落ち着いた雰囲気を取り組める環境をつくっていくことが課題となっております。</p> <p>以上、いただいた課題についての報告とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>1点目の就学前教育については我々にとって、最善な方法として進めてまいりましたが、議会という二元代表制、市政を回していくその両輪の部分において、今通園をされている当事者の方との話し合いを慎重に行うべきだと。よってその結論を出さずに、継続して審議をすることで、任期が満了になったということで廃案になりました。</p> <p>我々は審議の過程でいただいたご意見を重く受け止めておりまして、今年、今年度末ということではなく、少し時間的に1年間ゆとりを持って協議を行い、考えていきたいということで、方針を少し修正をしております。特別支援のところについては始まったばかりですので、または先生からも、ぜひご意見をいただければと思います。</p> <p>3点目の不登校施策につきましては、校内フリースクールが少しずつ進みました。めざすところとしては、学校教育を教室の中以外でも学べる。学校の中に来たら教室以外でも居場所があったり、学ぶ場所がある。学校に来なくても、自分が所属する学校以外でも、地域や別のところに行く場所があったり、学ぶ機会がある。こういった重層的に居場所がある、学ぶ場所があるということ、川西の教育行政の在り方として、私自身はめざしていきたいと思っております。今いただいた不登校特例校というのも選択肢の一つでありますし、北部地域の皆さんにとっては、セオリアが、というようなご意見もいただいております。教育大綱等の議論の中でもう少し深めていきたいと思っております。</p>

発言者	発言内容等
	<p>4点目、5点目は住民の皆さんからいただいていた、私がいただいたもので、こういうプロセスが今後必要なんだろうと。これを教育行政として上げるもの、学校現場でのプロセスを経るもの、こういったものをすることによって、1人の意見で、そこでマルバツで先生方や現場がマルバツを答えるのではなく、いただいたものは、みんながいるところで議論をして、この結論はこうなりましたという、そういうお返しをしていけるプロセスが、教育行政や、学校現場へのその信頼感に繋がるのかなと思います。このあたりについてもいろんなご意見をいただいてご提案いただいたと思います。</p> <p>校区に関しては非常に現実的な取組みになりました。ただ、そうこうしているうちに抽選が始まったようですので、抽選に漏れた方から申請をいただいて、抽選なんだから仕方がないというところなのかもしれませんが、校区の問題は絶えず子どもファーストでどうやっつくのか教育委員会と議論していきたいと思います。</p> <p>また、卒業式の在り方についても、最後に教育長のほうから最終的には学校現場だということで、思い起こしてみれば2年前は、コロナの波があるという中で卒業式の日程を変えるという決断をしたこともあります。そういった意味でその状況に応じて、最善の判断をしていただくと、学校現場が必要だと思えば変えられる状況というのは、保護者の皆さんにとっては心強い発言になったかなということになっておりますので、この点については、本格的な議論は来年度からというところだと思いますが、ご議論いただいたという感想を申し上げたいと思います。</p> <p>1から5まで私からの意見を申しましたが、ご意見やご提案等いただければと思います。</p> <p>佐々木委員お願いできますでしょうか。</p> <p>5つ全部なかなかまとめきれなかったもので、不登校施策について思ったことを少しだけ述べたいと思います。</p> <p>様々な理由で学校に来れない生徒さん、児童さんがいる中で、少しでも家から出る機会といえますか、学校という建物に来るというきっかけをつくるっていう意味がすごくいいことが進んでいるんだと聞いておりました。</p> <p>ただ私は心理の専門家ではないので、そのあたりを深めて話せないんですけども、来れなくなる原因っていうのは、本当に人それぞれで、もっと重大な何か、法律の手当が必要な家庭的な問題が潜んでいる場合もあるでしょうし、そうじゃない問題もあるかもしれません。</p> <p>本当にひとくくりには出来ない原因で、これだけの人数が、子どもたちが来れないという現状があるということを認識しながら、こういった学校にはフリースクール、いろいろたくさん作っていつてはいるけど、それでもやっぱり、もしも、出れないっていうお子さんたちへの目線といえますか、ケアといえますか、そういったフリースクールではないところの目線を忘れずに対応していかないといけないというふうにも考えておりました。</p> <p>フリースクール自体は大変良い試みで、各学校それぞれ取り組まれ、過ごしやすい雰囲気をつくっておりますけども、なんていうか、個人的に思ったのは、ここまでしてくれてるのにいけない自分っていうみたいな思いを、子どもさんにはさせてはいけないという視点を大切にしていけたらいいなと思っております。以上です。</p>
佐々木委員	
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>最初にいただいた点についてはおそらく、お家にひきこもって外に出られないという状</p>

発言者	発言内容等
	<p>態の方もいらっしゃると思いますので、そこはもう学校の問題を少しこえて、我々としても引きこもりの対策とか、アウトリーチをどうしていくのかとか、そういった話になってくると思います。</p> <p>ただ、窓口としてきっかけはやっぱり学校現場が発見するという、そういうことが多いわけですので、今そういった意味で子どもの施策を、教育委員会のほうに事務委任にしておりましたが、今後、乳幼児支援とか一括して産前・産後みたいなこともありますので、子ども施策は一元的に、市長部局のほうに元に戻して、一方で今までこども未来部と教育委員会で連携してたところは、位置的なところは変えないまま、意思決定の組織的なプロセスというのは、ちょっと変えていくという条例案を3月のほうに予定しております。</p> <p>ただ、一致団結して子どもたち、どこの部署だろうが子どもファーストでやっていくということは変わらないのかなと思っております。</p> <p>次に坂本委員、お願いできますか。</p>
坂本委員	<p>佐々木委員のお話を聞いて、不登校のお子さんのことはたくさん知っているのですが、親御さんが抱えられてる思いであるとか、子どもさん自身がどう感じているのかも大事なんですけど、子どもが行かないって選択肢を選んだときに、割と子どもはあれなんですけど、どうしても保護者が置いてけぼりになってしまうこともあったりします。さっき市長が仰ったようにいろんな形でサポート、アウトリーチがあったらいいんじゃないかなと改めて思いました。</p> <p>多田中学校のご報告、子どもの居場所がフリースクール、部屋だけではなく、居場所をつくっていきたいんですというお話があって、どこにいてもいいんだということを改めて思いました。</p> <p>卒業式のあり方なんですけど、私が保護者の時もやっぱり、どうなんやろ、どうしようもないねんっていう、決まったことは変わらないということがあったりするんですけども、こうやって声があがってきて、議論して、子どもたちの声を聞いてから話が前に進んでいく、一つのいいきっかけになったかなと思っています。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>保護者への対応という、いろんなところではそういう親の会みたいなのがあって、また教育委員会や児童部門と連携がとれているというところがあって、なかなか親御さんも、その自分のお子さんの苦しみのところが、なかなか共有できないというところがあると思います。</p> <p>先ほど言っていたいたリアリティというのは、当事者の方からすると、我が子の時に変えられるか変えれないかということが非常に大きな問題なのだと思います。</p> <p>私もPTA問題の時にも申し上げたかもしれませんが、子どもの問題っていうのは、保育所に入れないときは待機児童の問題に躍起になって、小学校に入ったらその問題を忘れてしまったわけじゃないんですけど、課題が変わりますので、医療費の助成の問題にいき、中学校に行ったら給食やクラブ活動などの話になり、自分のライフステージが変わった後に、継続してやっぱり声を上げ続けないとバトンを渡し続けれないといけないというところに、子ども施策がなかなか前に進まなかったところがあるんじゃないかなっていうふうに私自身は感じています。</p> <p>今回は非常に大きな、保護者様からのお声というのがありましたので、そこは私も教育委員会としても、今日明日、決定というものばかりではありませんので、そうじゃないん</p>

発言者	発言内容等
治部委員	<p>ですけど、ひとつ大きな変化を受けていただいたんじゃないかなと思います。 また教育委員のほうからも、またご意見いただけたらと思います。 では、治部委員お願いします。</p> <p>私、幼児教育は非常に美しいとずっと思っているんです。 幼児教育的な視点から、学校教育を見たとき、少し見え方が違ったりすると思います。 幼児教育的もしくは保育的な視点から特別支援教育や不登校施策を考えたりするとき に、学校教育が参考にできる部分があると思っています。例えば校内フリースクールはデ ザインできると僕は思っています。 デザインは、物質的なデザインと人為的なデザイン、加えてカリキュラムのデザインに 分けて考えられます。学校教育のフレームワークに、幼児教育的なスパイスを加えた時 に、学校とつながることができる児童生徒が増えるかもしれないと感じます。 例えば、空間的なデザインでいうと、学習用デスクがどのように配置されているか、そ のうえで、学習項目が整理され見える化されているか等です。人為的要因は、声かけの仕 方、教職員や仲間との協働の機会などが挙げられると思います。カリキュラムのデザイン は、感情教育、注意力トレーニング、ソーシャルスキルに関する意見交換などが考えられ ます。 その他、学力を伸ばすということだけではなく、学業との向き合い方、各々の学業との 付き合い方を支援できれば児童生徒の自己肯定感は育まれるのだろうと思っているん です。非認知的なスキルが学力の継続的な成長に関係しているとの説がありますので、対 人関係スキル、感情のコントロールスキルと、目標に向かって継続的にチャレンジする姿 勢などを支えられるようなカリキュラムがデザインされると良いだろうなと思っていま す。物質的、人為的、カリキュラム的なデザインを模索することは、学校集団の中で居場 所を見つけることができない児童生徒にとって、もしくは、特別な支援を求める児童生徒 にとって、学びの機会を保障することになるかもしれないと私は考えています。</p>
市長	<p>不登校の良い悪いの価値観のところ、どうしても場所があるということと、やはりそ の学校教育の中で、みんながそもそもそこで居場所があって、居心地がよければ、それが 一番ハッピーに近づくということでしょうから、そういったことも含めて、学校教育とし て不登校対策、幼児教育、そういったところも、デザインをしていくのが今回の教育大綱 の大きなテーマでもあります。 ぜひそのあたりのご協力と、また校内フリースクールとメンバーもできるだけまたお気 づきの点等がありましたら、皆さんからもぜひご意見をいただきたいと思います。 教育長とはいくつも議論もしていますので、ずれはあまりないのですが、今のこの議論 の中で感じられていることなんかをお伝えいただければと思います。 来年度の決意表明も含めて、ぜひよろしくお願いします。</p>
石田 教育 長	<p>私自身は現状のところ立ちゆかない課題が様々な形であります。今いただいた課題もそ うですし、教職員の働き方改革という形でもでてきています。教科担任制とか複数担任制 がとか、部活動のことなど、それは教師目線だけじゃなくて今までの子どもの学びのあり 方は、ちょっとモデルをやっぴり変えていかないといけないっていう声も、現場サイドで も出てきている。それがちゃんと保護者や、児童生徒の意見もきちっと吸い上げつつ、ま た、ご理解をいただきつつ、ともに作り上げていくというような、そういう発想でやっぴ</p>

発言者	発言内容等
市長	<p>り進めていかないといけないかなと思っています。</p> <p>私は非常に心を痛めているのは、現場であり、幼児教育も含め保育も含めてなり手がいてないんですよね。やっぱりそういう職場をもっと魅力的にしていくためには、やっぱりそういう改革が必要になっていくと思います。</p> <p>それからいつも市長にいただいているんですけど、やっぱり、それぞれの知見を持った教育委員が、一堂に会する中で、様々な角度からご意見をいただく、それをどういう形で現場に返していくのか、またこの事務局は、職員がどう受け止めるのか、より考えていきたいというふうに考えております。私からは以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>最後、3の報告事項についてです。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
石田 総合政策部長	<p>2・3あわせてご説明させていただきたいと思います。</p> <p>教育大綱の考え方については先ほど冒頭、市長のほうからお話がありました。</p> <p>要は教育大綱ってどんなものかといいますと、市と教育委員会が、理念を共有していくためのものと、基本的な指針というふうに考えていただいていると思います。これをどんなふうにしていくのかということになりますので、これについては基本的に市長が策定をするということにはなっておりますけれども、やはり総合教育会議の中で、議論をしながら、これを策定していく。</p> <p>その策定のプロセスの中では、先ほど市長のほうから、総合教育会議の地域開催というご提案がありました。</p> <p>つまりそれは当事者である子どもたち、また保護者の声を、その中でできる限りこれを取り込んでいくということが一番重要なことというふうに考えているところです。</p> <p>それから、折しも実は川西市のまちづくりの大きな指針であります総合計画、これは令和6年度からのスタートにあわせて、今ちょうど準備をしております。令和5年度が大詰めということになります。</p> <p>このタイミングに合わせて、この教育大綱もこの総合計画と整合をとりながらつくっていくのが一番まちづくり全体、教育の指針としてもいいタイミングではないかなと考えているところです。</p> <p>具体的にどんな形でというのが資料のほうにお示しをしております。</p> <p>令和5年度に入りまして、5月ぐらいから中学校区単位で、7回ほどタウンミーティングという形で一部、二部構成となります。</p> <p>一部では、タウンミーティングで子どもたち、保護者の意見を聞きながら、市長と対話をして、教育会議のメンバーの方について傍聴という立場になりますけど、ご意見を聞いていただく。</p> <p>二部のほうでは、総合教育会議として、一部であった子どもたち、保護者の意見に対して、課題はどうだ、対応としてはこういうのが考えられるのではないかなということのご議論を、この7ヶ所で、実施したいというふうに考えているところです。</p> <p>令和6年度につきましても、総合教育会議を年間で4回考えております。</p> <p>これ全てを中学校区でというのは無理ですので、年に2ヶ所ごとにピックアップをして、地域開催をしながら、教育大綱がどんな形で、成果、進捗をしているのかということもあわせてご議論いただけたらというふうに考えるところでございます。</p>

発言者	発言内容等
市長	<p>以上でございます。</p> <p>最初に私が大分しゃべってしまいました。ありがとうございます。 この報告事項について、なにかありませんか。</p> <p>（「なし」の声あり。）</p>
市長	<p>では、報告事項は以上といたします。</p> <p>1時間というところで、しっかり時間通り終われる珍しい私のマネジメントが発揮出来ました。本当にこの一年委員の皆様には大変お世話になりました。</p> <p>事務局の皆さんも様々なご準備をいただきありがとうございます。</p> <p>令和5年度、しっかりと加速をしていくために、また皆さんと力を合わせて子どもたちのために取り組んでいける、そんな場所になればと思っております。</p> <p>一年間お世話になりましたことを最後にお礼を申し上げまして、令和4年度第2回総合教育会議をこれで終了させていただきたいと思っております。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>